「日々の理科」（第 1364 号） 2018（H30）,-4,-1

「春の小石川植物園(7)」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

小石川植物園は「植物の多様性の保全」を設置理念の一つとして掲げている。要するに、できるだけ多くの種（しゅ）を意図的に育てているのである。

「シラカンバ」*Betula platyphylla* 通常は「シラカバ（白樺）」と呼ばれているが、正式な和名は「シラカンバ」である。高原や高緯度地方に多い樹木だが、東京のような気候でも普通に育つ。白い樹皮が美しく、庭に白樺が一本あると、高原の雰囲気を味わえるものだ。しかし樹液が屋根を汚し、風媒花なので花粉症の原因の一つになる、少々厄介者でもある。

シラカンバは落葉高木だが、植物園のものは、私の背丈ほどしかない。このように目の高さで、新しく出てきた葉の形状を、細かく観察できる。

「ゼンマイ」*Osmunda japonica*　（ゼンマイ科）

植物園の植物は、大部分が被子植物（花が咲いて結実する）だが、シダ植物もある。これは芽生えてしばらくたった姿で、小さなものは食用になる。ばねの一種の「ゼンマイ」はこの形状に由来する。背景に写っているのは「ゼンマイ」ではなく「オジサン」である。

この美しい花は何の花かわかるだろうか？５枚の花弁で離弁花。バラ科の植物ということは間違いない。アーモンドの花にもよく似ている。これは「ユスラウメ」*Prunus tomentosa* である。透き通った美しい果実を鈴なりにつける。「櫻」は、もともとこのユスラウメをさす漢字だったという。

「ワレモコウ」*Sanguisorba officinalis* とツクシが一緒の場所にあった。ワレモコウは高原の草地に多い。秋には少し変わった美しい花をつけるので、また見に来たいと思った。

この日はよく晴れていたので、何枚か絵も描いた。サクラは白くて色味に乏しいので、描くのが難しい。